

福島県教育  
委員会  
教育長賞

## 福島をつなげよう 架け橋で

福島大学附属中学校  
にしがた はなり  
西形 花璃

広い福島をつなぐにはどうすればいいだろうか。

私は去年、福島民友新聞社のこども記者として活動していた。そこでは、福島県の魅力について取材してきた。

取材した内容を持って、全国のこども記者たちが集まる子供新聞サミットというものに参加した。その時に、

「何県に住んでるの」

「福島県だよ」

「福島ってどんなところ？おすすめの場所とかある？」

私は答えることができなかった。取材を通して、福島県の魅力はわかったつもりだった。しかし、具体的なことは他県の人を前にすると出なかった。

私の住む県は、福島と一言で言っても、かなり広い。浜通り、中通り、会津地方と、それぞれ気候も特色も文化も違う。冬、浜通りはあたたかいが、中通りは寒く、会津地方は雪が多い。それぞれの地方の特産品だって、全然違う。そして、東日本大震災からの復興状況も違う。浜通りはまだまだ復興途中だったり、帰還困難区域があったりするが、中通り、会津地方は、受けた被害の程度によっては、もう復興していたりもする。それぞれが違いすぎるため、ばらばらで、まとまりがなく、アピールしにくいのだ。

そこで私は考えた。私たち子ども世代がつながり、福島を楽しい県に、福島県をまるごと大好きになれるようにしたらどうだろうか。

例えば、福島の同世代がつながるサイトをたちあげる。このサイトでは、学校で学習した地元のことをのせること、小学校や、中学校に質問して、その子供たちに答えてもらうことができる。さらにオンラインで生徒同士話し合うことができる。自分たちで調べたことを自分達だけで終わらせるのではなく、福島県の仲間に伝えることができる。

このサイトを通じることで、福島の同世代がつながる。それぞれが住んでいる地域について伝え合う。この町のこのカフェが素敵、とか、きれいな夕焼けが山から見える、とか、海がきれい、とか。身近なことを共有することで、広い福島県のことを身近に感じることができる。調べることだってできる。私たちの架け橋になってもらうのだ。

そうすることで、将来私と同じような質問をされた誰かが、はっきりと、自分の地元以外の場所もおすすめできるのではないだろうか。

そこからさらに、県外の人たちも来てくれるようになり、つながっていけるのではないだろうか。私たちがつながることで、たくさんいいことがある。

震災生まれの世代として、これから復興にかかわっていかねばならない私たち。そんな私たちがつながることで、より福島が明るくなっていくのではないだろうか。

福島をつなげよう、架け橋で。